

2012年度前期卒業式式辞

本日、学士の学位をえた17名の学部卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。列席の理事・副学長、学部長とともにご卒業を心からお祝いたします。重ねてご家族あるいは関係者の皆さまにも、心からお慶びを申し上げます。

昨年の前期卒業式は、台風の接近による悪天候のため警報が発令され中止となり、既に会場に到着していた一部の修了生のみで執り行うという残念な形式になりましたが、幸い本日は天候に恵まれ、皆さんとともにお祝いできることを嬉しく思います。

さて、皆さんのご卒業にあたり、皆さん方のこれからの人生にエールをお送りしたいと思います。

皆さんにとって、これから生きていく時代、社会はどのように見えているでしょうか。私は、今のあなた方と同じように大学を卒業するときに、これから自分が生きていく時代や社会がどのように見えていたのか鮮明に記憶してはおりませんが、しっかりと学び、しっかりと仕事や活動に取り組み続ければ、人々の志は重なり、多くの人々が幸せになれる時代や社会を実現できるだろうと思っておりました。

しかし、皆さん方にとっては、〈多くの人々が、幸せになれる時代や社会〉などはきっと想像もつかないことではないでしょうか。自分は安定的な仕事に就けるだろうか、自分が入った会社、組織は、いつまで持続するのだろうかなど、自分自身の基本的な生活を確保できるかどうかという不安、これから始まる人生の前途への不安が大きく覆っていることと思います。加えて3・11大震災により、私たちは、自然の脅威と原子力の底知れぬ恐怖を思い知らされ、日本列島において生存していくということ自体が深刻で大きな困難であることを教えられました。更に、私たちは、政治、経済、そして人間の在り方自身をめぐって、解のない問題に直面し、前途への不安を抱えています。これらの不安は、日本だけではなく、世界が直面している問題です。

こうした事態にあることを認識すれば、私としては、皆さんに安易に生き方を語ることはできません。

今、皆さんに申し上げられることは、こうした若者の苦しみ・不安は、世界共通のものであり、形や課題は違いますが、世界中で若者達が、不安に立ち向かい始めているということ、そして若者の「自己責任」論を厳しく排し、若者の未来を応援しようとする方々も少なくないということです。

不安や悩みに襲われた時は、その不安、悩みを語れば、必ずあなたに共感し、思いを共有する他者を見出せることでしょう。その他者とともに、語り合い、学び合うことが大事です。そうすれば、道は必ず開けると確信します。

和歌山大学は、「生涯、あなたの人生を応援します」とメッセージを発しています。人生の岐路に直面した時、語り合う他者が見出せない時は、母校を思い起こし、リターンしてください。教職員は勿論のことですが、全国各地にいる同窓会の諸先輩方も、皆さんの人生の応援団として待っていて下さいます。そのことを最後にお伝えし、式辞といたします。

2012年9月21日

和歌山大学長 山本 健慈